

顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年
(2020年) 4月15日

No.1434



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | @city_shibuya_official
LINE | @shibuyacity



アカデミック・ディレクター クリストファー・クレングレンさん

渋谷だからこそ生まれるコミュニケーション。
言語を学ぶことより大切な「伝える」気持ち。

2 | 気負わずに渋谷区で
3 | 楽しくおもてなし。

4 | 新型コロナウイルス
5 | 感染拡大防止に伴うお知らせほか

6 | 2年度予算が
8 | 決まりましたほか

9 | 暮らしの情報
11 |

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

気負わずに渋谷区で楽しくおもてなし。

渋谷のラジオで
出張インタビュー

渋谷に住んで10年、区の「おもてなし講座」の講師も務めるクリストファー・クレングレンさんに渋谷の魅力や、英語を使ったコミュニケーションの楽しさについて伺いました。



夢を持つことは大事です。夢があればつらいときも頑張れます。

アカデミック・ディレクター (EF エデュケーション・ファースト)
クリストファー・クレングレンさん

17歳、日本で経験した言葉の壁。

——クリストファーさんは高校生の時初めて日本にいらしたんですね。

クリス：そうです、1997年、17歳の時でした。当時はNBAに入りたくて、母国のスウェーデンでバスケットボールの専門学校に通っていたのですが、けがが多くてプロ選手になることを断念したんです。それで、次の夢を探さなくてはと思い、留学することにしました。留学先にアメリカを選ぶ同級生が多い中で、僕はもっと違う経験がしてみたかった。だから、父が千代の富士関、母が黒澤明監督の映画の大ファンだということで、少し親近感を持っていた日本を留学先に選びました。それで、ロータリークラブ*と提携していた大阪府岸和田市の学校に通うことになったんです。

*1905年、アメリカのシカゴで創設された国際的な社会奉仕連合団体。活動の一環として交換留学制度を持つ。

——ご両親は日本の文化に精通しているんですね。

クリス：当時スウェーデンで、EUROSPORT(ユーロスポーツ)というテレビ局で相撲の取組が放映されていたので…母は、とにかく三船敏郎さんがカッコいいと(笑)。とはいえ、ほとんど日本についての知識もなく、日本語も話せないままでしたが、若いですから、「こんな田舎出て行ってやる!」くらいの気持ちで大阪に来ました。初日は空港までホストファミリーが迎えにきてくれて、みんながチャホやしてくれて、すき焼きも食べて。忘れられないのが、そのあとで

す。家でお風呂に入って、さあ寝ようと自分の部屋のドアを閉めた瞬間の、しん…という静けさ。初めて親元を離れた孤独を実感しました。その孤独が溶けるまで、2、3か月かかったような気がします。何も話せないわけですよ。「水が飲みたい」「お腹がすいた」「トイレどこですか」でさえも。言葉が通じない、それでもコミュニケーションを取らないといけない、今はそのつらさも分かるし、コツも分かる。その時の体験が今の僕のアカデミック・ディレクター(学習主任)としての活動の根幹になっていると思っています。1997年当時、日本にいる僕の周りの外国人は、全員英語の先生でした。それで、反抗期だった僕は「絶対に英語の先生にはならない」と決めた(笑)。その決心は今も変わらず、僕は、自分が英語の先生をやっていると思ったことは、今まで一度もありません。英語を教えているんじゃないって、コミュニケーションの方法を教えています。

途中で変わってもいいから、夢を持とう。

——「渋谷区おもてなし講座」ではどのように「コミュニケーションの方法」を教えているんですか？

クリス：最初に、「この講座は挑戦をするための授業なので、完璧になる必要はありません」と伝えています。言葉を使わずに、ボディランゲージ(身振り・手振り)とフェイシャルエクプレッション(顔の表現)を使って、お題として与えられた質問をするんです。「ホテルはどこですか」「トイレはどこですか」とか。最初はとても苦労します。でも、「ホテル」だったら寝ているジェスチャー、「トイレ」だったら我慢して少し苦しんでいるようなジェスチャーで、十分伝わるんですよ。だから、完璧な英語じゃなくても、単語が一つ話せるだけで十分じゃない？と。英語アレルギーを取り除いて、まずは話してみよう、というアプローチなんです。文法とか難しく考えていたら楽しくないですから。

——日本の学校では英語を長く勉強しますが、話すのが苦手な人が多いかもしれません。

クリス：楽しくないと続かないですよ。僕の母国語はスウェーデン語ですが、なぜ英語を覚えたかということ、とにかくマイケル・ジョーダン(元NBA選手)の本を読みたくてたまらなかったからなんです。つまり、「英語」を目的にするのではなく、それを使って何をするか、という目標を立てるのが大切。僕がアカデミック・ディレクターをしているイー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナーとして教育プログラムを提供していますので、その一環で僕は今「オリンピック精神を英語で学ぼう」「パラリンピック精神を英語で学ぼう」というプログラムを担当しています。英語を教えるのではなく、英語を「使って」何かを教える仕事です。

——具体的な目標や、夢を持つことが大事なんですね。

クリス：夢を持つことはとにかく大事です。夢があればつらいときにも頑張れます。僕はNBAの夢は叶わなかったけれど、追いかけたことに

よって多くを学んだし、多くのチャンスに出会えた。夢は途中で変わってもいいし、小さな夢でもいいです。だから授業の中で僕は必ず生徒に、「My dream is…」と書いてもらっています。

たくさんのチャンスが集まる街、渋谷。

——大阪で高校生活を過ごして、渋谷に住むようになったきっかけは何ですか？

クリス：高校生の時に、友達と夜行バスに乗って東京に来たんです。「せっかく東京に来たんだからやっぱり渋谷だろう」ということで、その時初めて行きました。うまく言葉にできないですが強烈な印象を受けて…漠然と、いつかここに住んでみたいなあ、と思ったことを覚えています。そのあと、ロンドン大学に通ったりもしましたが、やっぱり日本に戻ってきたい、と思った時、住む場所として選んだのは渋谷でした。実際に住んでみて、「住む渋谷」と「遊びに来る渋谷」はまったく違うということが分かりました。駅の周りの賑やかなエリアから、一步、二歩離れると、意外にとっても静かなんですよ。それから、僕はスウェーデン人として自然をとっても大切にしているから、気軽に運動できる代々木公園はとても好きです。僕が住んでいるのは神泉町で、会社は渋谷クロスタワー、知人と遊ぶ時は原宿で、ちょっと足を伸ばして代官山や恵比寿に行くことも…あまり渋谷区から出ないですね(笑)。

——「渋谷のラジオ」でもパーソナリティをやられていたそうですね。

クリス：区の広報番組「Hello from Shibuya」を担当していました。今の会社に入社した時に、せっかく渋谷にあるんだから、何か地域とつながったことをやりたいと思って、ラジオ局に声を掛けました。僕はいろいろな国と街に住んできましたが、やっぱり「地域」はすごく大切。住んでいる場所に根付いて、地元の人と話さないと見えない景色がたくさんあります。「渋谷のラジオ」はとても面白くて、地元のパン屋さんが出演すると思えば、ローカルラジオとは思えないくらいの大物が突然登場することもある。そのギャップが面白かったです。

——多様な人が集まるのは、非常に渋谷らしいのかもしれないですね。

クリス：まさしく。渋谷の魅力は「ギャップ」かもしれません。繁華街があれば、静かな住宅街もあって、地元で愛されるローカルスターがいれば、世界的に知られる有名人もいます。いろいろな人がいるから、その分、ビジネスのチャンスもとても多いはず。だから、渋谷区の皆さんに伝えたいのは、世界中から集まる人たちにぜひ、恥ずかしがらずに、興味を持って話し掛けてほしいということです。一生懸命、頑張って伝えようとしてくれる気持ちを見せられて、嫌な気持ちになる人は世界中のどこにもいないはずですから。

——どうしても「恥ずかしい」という気持ちが捨てきれないこともあると思いますが、そんな皆さんへ、アドバイス、メッセージをお願いします。

クリス：東京2020大会はコミュニケーションを取るのにいいタイミングですよ。ピンズって皆さん知っていますか？オリンピックでは昔から、大会のためにつくられたピンズを交換する「ピントレーディング」が人気で、世界中に熱的なコレクターがいるんです。だから、言葉が通じなくても、自分が持っているピンズを見せたら絶対に興味を持ってくれます。一番は、共通の話題がある空間でコミュニケーションを取ることだと思いますよ。ピントレーディングだけでなく、今はいろいろなコミュニティーがあります。同じ映画が好き、同じスポーツが好き、という語り合えるテーマがあれば、そこで英語を使ってコミュニケーションを取れます。皆さんにはぜひ、気負わずにチャレンジしてみてくださいね！

クリスさんプロフィール

1979年スウェーデン出身。高校生のときに大阪へ1年間交換留学を経験。卒業後は、ロンドン大学に入学し、早稲田大学の国際教養プログラムに1年間参加する。卒業後、2004年にNHKアテネ五輪支局に勤務。2011年スウェーデン商工会議所役員に就任。2014年国際教育機関イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社入社。

2010年から渋谷区に在住。1年半にわたり(2016~2018年)渋谷のラジオパーソナリティを務めたほか、旧朝倉家住宅のPR動画(YouTube)への制作協力、大相撲渋谷青山学院場所の英語のMC、またコンテンツボランティアアーティストとして渋谷区内で個展を開催するなど、国内外に向けて渋谷区を盛り上げるための教育・PR活動を展開。



▲オリンピックのピンズ



▲おもてなし講座の様子



◀クリスさん登場の旧朝倉家住宅PR動画はこちら
www.youtube.com/watch?v=tNj6sPuGBtQ

クリスさんのインタビューは4月7・14日に「渋谷の星」で放送します。

問広報コミュニケーション課広報係 ☎3463-1287 📠5458-4920

渋谷区の番組を放送中です ラジオ しぶや区ニュース (10分間) 月~木 11:00/16:00/21:50 「しぶや区ニュース」の情報を発信します。	渋谷の星 (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する人たちが登場します。	渋谷のくらし (30分間) 火 16:20 地域の催しなどの様子を伝えます。	ラジオ しぶや区ニュース(区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部区長が出演します(ラジオしぶや区ニュースの内部になる場合あり)。
--	---	---	---

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数:
87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能

所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876
 FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/